

保存版

羅臼町

防災

ハザードマップ

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

羅臼町 WEB 版ハザードマップ

二次元バーコード読み取り機能付きスマートフォン、タブレットをお持ちの方は、右の二次元バーコードを読み取ると羅臼町 WEB 版ハザードマップサイトにアクセスできます。いざという時、外出時などにすぐ確認できるよう、ブックマーク登録しておきましょう。
※GPS 機能を利用すれば、現在位置の地図が表示されます。(一部機種を除く)
※URL はこちら：<https://rausutown-bousai.jp> (PC でも閲覧可能です)



防災の心がけ

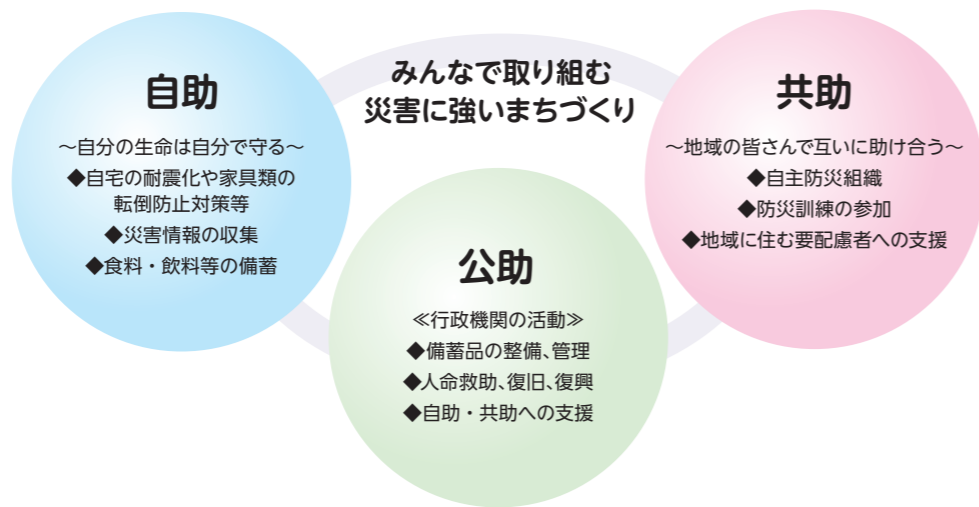
近年頻繁に発生する局地的集中豪雨や大規模地震など異常気象による災害は私たちの予想をはるかに超えた規模となってきました。平成 23 年 3 月の東日本大震災は想像をはるかに超える大地震と大津波をもたらし、平成 30 年 9 月の北海道胆振東部地震では地震による災害だけでなく北海道全域が「ブラックアウト」に見舞われ日常生活に大きな支障をきたしました。こうした状況のなか、これまで想定外といわれてきた災害は、今後頻繁にやってくるという災害に対する意識づくりが重要です。

災害はいつやってくるかわかりません。

「まさかは必ずやってくる」という心がけでしっかりと備えることが、自らが助かり、大切な人を助けることにつながります。いざという時に備えて、この「羅臼町防災ハザードマップ」を防災対策にお役立てください。

地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風等の自然災害による被害を最小限に抑えるためには、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政の救助・支援「公助」の取り組みが必要です。大規模災害時では、公助の機能に限界がありますので、「自助・共助・公助」が連携することにより、住民と行政が一体となって地域防災力を高めることが重要となります。いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。



はじめに	1	津波対策について	20
避難施設一覧	2	地震発生・津波の危険は?	21～22
警戒レベルを用いた避難情報	3	羅臼町の津波の特徴と避難行動	23
防災情報の伝達と入手	4	津波ハザードマップ	24～34
避難行動ガイド	5	火山噴火対策について	35
土砂災害について	6	雪害について	36
洪水・浸水害について	7	わが家の防災対策	37
土砂・洪水ハザードマップ	8～18	備蓄品および非常持ち出し品	38
地震対策について	19	わが家の「緊急・救急情報」防災メモ	裏表紙

避難施設の種類

指定避難所

災害による家屋の倒壊などで、ご自宅が被災された方々や、災害により帰宅が困難となった方々が一時的に滞り、避難生活を送ることを目的として、学校・体育館・公共建築物・町内会館などを指定しています。

指定緊急避難場所

災害発生後の危険が迫っている状況で、生命の安全を確保することを目的とした緊急的な避難先として、公共施設や道路、公園などを指定しています。

指定避難所・指定緊急避難場所一覧

No.	指定避難所	指定緊急避難場所	施設・場所名	住所	電話番号	土砂洪水掲載頁	津波掲載頁	災害現象の種類				
								洪水	土砂災害	高潮	地震	津波
1	×	○	植別1号線(野口宅付近 道路)	峯浜町		P13	P27	○	○	○	○	○
2	×	○	陸志別5号線(鳥谷宅付近 道路)	峯浜町		P13	P27	○	○	○	○	○
3	×	○	陸志別1号線(伊藤宅付近 道路)	峯浜町		P13	P27	○	○	○	○	○
4	○	○	峯浜町コミュニティセンター	峯浜町508番地4	0153-88-3006	P13	P27	×	○	×	○	×
5	×	○	幌萌町1号線と国道335号線交差付近	幌萌町		P13	P27	○	○	○	○	○
6	○	○	農林漁業体験実習館	幌萌町627番地1	0153-88-1094	P14	P28	○	○	○	○	○
7	×	○	総合運動公園	幌萌町632番地2	0153-88-2072	P14	P28	○	○	○	○	○
8	○	○	春日町福祉館	春日町47番地2	0153-88-2867	P13	P27	○	×	○	×	×
9	○	○	麻布町福祉館	麻布町10番地1	0153-88-2860	P13	P27	○	×	○	×	×
10	×	○	八木浜町水源地	八木浜町57番地		P14	P28	○	×	○	○	○
11	○	○	八木浜町福祉館	八木浜町30番地1	0153-88-1515	P14	P28	○	×	○	×	×
12	○	○	春松小学校 春松幼稚園	八木浜町190番地	小学校:0153-88-2263 幼稚園:0153-88-1616	P14	P28	○	×	○	○	×
13	○	○	知松福祉館	知昭町61番地	0153-88-2869	P15	P29	○	×	○	×	×
14	×	○	国道335号線(ソスケ地区)	松法町		P15	P29	○	×	○	×	○
15	○	○	羅臼高校	礼文町9番地3	0153-87-2481	P16	P30	○	×	○	×	○
16	○	○	礼文町南町内会館	礼文町367番地	0153-87-3295	P16	P30	○	×	○	○	○
17	○	○	礼文町北町内会館	礼文町64番地	0153-87-3739	P9/P11	P25	○	×	○	○	○
18	○	○	緑町町内会館	緑町299番地1	0153-87-2154	P9/P11	P25	○	○	○	○	○
19	○	○	羅臼小学校	本町41番地	0153-87-2006	P9/P11	P25	○	×	○	○	○
20	○	○	羅臼幼稚園	緑町301番地	0153-87-2747	P9/P11	P25	○	×	○	○	○
21	○	○	羅臼町役場	栄町100番地83	0153-87-2111	P9/P11	P25	×	○	○	○	○
22	○	○	らうすば(羅臼町民体育館)	栄町102番地	0153-85-7715	P10/P12	P26	○	×	○	○	○
23	○	○	知床未来中学校	栄町104番地の2	0153-87-2049	P10/P12	P26	○	※避難経路 対象外	○	○	○
24	○	○	羅臼町商工会館	船見町46番地1	0153-87-2300	P10/P12	P26	○	×	○	○	○
25	○	○	羅臼漁業協同組合	船見町2番地の13	0153-87-2131	P10/P12	P26	○	○	○	○	×
26	○	○	羅臼町コミュニティセンター	船見町2番地の16	0153-87-3904	P10/P12	P26	○	○	○	○	×
27	×	○	羅臼神社	栄町127番地	0153-87-2225	P10/P12	P26	○	×	○	×	○
28	○	○	栄町高台町内会館	栄町104番地3	0153-87-2646	P10/P12	P26	○	○	○	○	○
29	○	○	栄町町内会館	栄町10番地1	0153-87-4510	P10/P12	P26	○	×	○	×	○
30	○	○	羅臼町老人福祉センター	湯ノ沢町14番地3	0153-87-2390	P10/P12	P26	○	○	○	○	○
31	×	○	しおかぜ公園	共栄町		P10/P12	P26	○	×	○	○	○
32	○	○	共栄町会館	共栄町105番地13		P10/P12	P26	○	×	○	×	○
33	○	○	海岸町コミュニティセンター	海岸町441番地	0153-89-2128	P15	P29	○	×	○	×	×
34	×	○	町道2号線(天狗岩)	海岸町		P15	P29	○	×	○	○	○
35	○	○	岬町コミュニティセンター	岬町119番地1	0153-89-2117	P17	P31	○	○	○	○	×
36	○	○	旧知円別小中学校	岬町33番地		P17	P31	○	×	○	○	○
37	×	○	岩見橋避難場所	岬町9番地4		P18	P32	○	×	○	○	×

! 災害の規模や危険箇所・発生状況に応じて開設する避難所を決定します。

避難場所指定以外の箇所

No.	施設・場所名	住所	土砂洪水掲載頁	津波掲載頁	避難場所として指定されていませんが、切迫した災害の危険から身を守るために緊急的に避難することが可能な場所です。
1	春松小学校グラウンドの裏山	八木浜町	P14	P28	
2	くじらの見える丘公園(夏季限定)	海岸町	P16	P30	
3	旧飛仁帯小学校グラウンドの裏山	海岸町	P15	P29	

警戒レベルを用いた避難情報

警戒レベルについて 警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。

避難情報等 (警戒レベル)				警戒レベル相当情報	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 ・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはけません! ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保	5相当 ・大雨特別警報 ・氾濫発生情報	
< 警戒レベル4までに必ず避難! >					
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4相当 ・土砂災害警戒情報 ・危険度分布「非常に危険」(うす紫) ・氾濫危険情報 ・高潮特別警報 ・高潮警報	
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ・「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。 ・さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3相当 ・大雨警報(土砂災害) ・洪水警報 ・危険度分布「警戒」(赤) ・氾濫警戒情報 ・高潮注意報	
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水 注意報	2相当 ・危険度分布「注意」(黄) ・氾濫注意情報	
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当	

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では、発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても、警戒レベルに相当する気象情報を認識し、危険を感じたら早めに避難行動をとってください。大切なことは「自分で判断する」ということです。

警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。また、必ず発令されるものではありません。

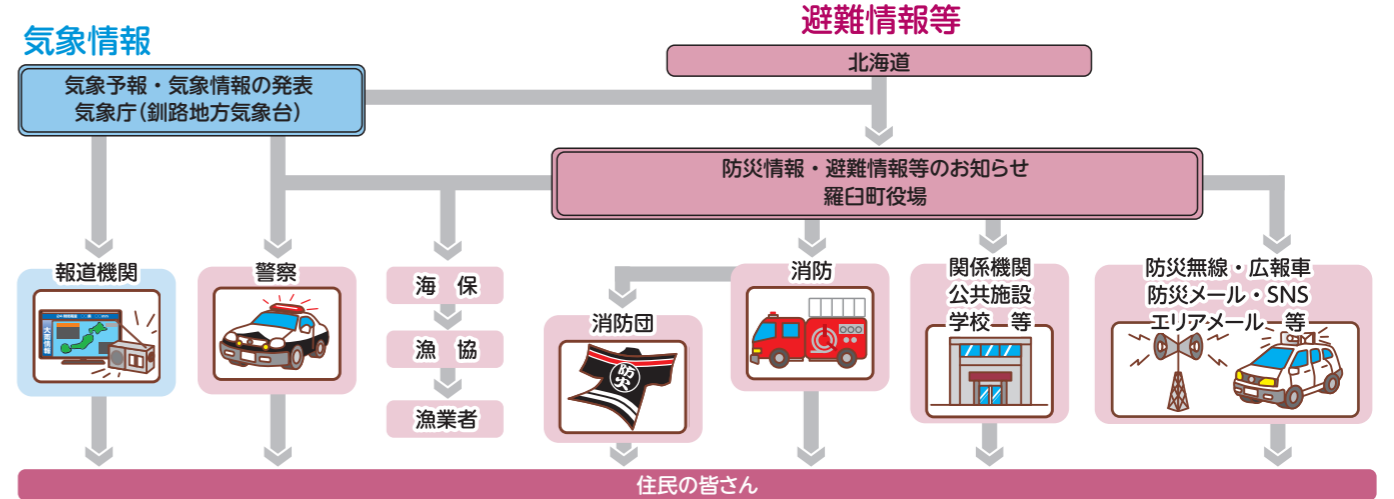
警戒レベル3 高齢者等避難や**警戒レベル4 避難指示**で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。



(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)

防災情報の伝達と入手

防災情報の伝達



防災情報の入手

町の情報

- 避難指示などの発令情報
- 避難所開設情報
- 各種災害情報

■ 羅臼町ホームページ
<https://www.rausu-town.jp/>
 羅臼町

気象の情報

- 気象情報・注意報
- 台風・洪水・土砂災害などの防災気象情報

■ 釧路地方気象台ホームページ
<https://www.data.jma.go.jp/kushiro/>
 釧路地方気象台

■ 気象警報・注意報(羅臼町)
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#8/43.343/144.654/&elem=all&contents=warning>
 気象庁 警報・注意報

土砂災害の情報

- 土砂災害警戒情報

■ 北海道土砂災害警戒情報システム
<https://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/>
 北海道土砂災害警戒情報システム

水位の情報

- 雨量情報
- ダム情報
- 水防警報
- 水位情報
- 洪水予報
- ライブカメラ

■ 国土交通省「川の防災情報」
<https://www.river.go.jp/index>
 川の防災情報

防災・町内情報メール

■ 羅臼町公式LINE
 町では登録制の「防災情報メール」と「町内情報メール」にて防災情報や生活情報の配信を行っています。また、町内の様々な情報をタイムリーに配信する「羅臼町公式LINEアカウント」でも防災情報をお届けしています。情報入手の手段は多いに越したことはありませんので、まだ登録していない方はぜひご利用ください。

防災情報メール

- 気象情報
- 地震、津波情報
- 避難情報
- 国民保護情報
- 町内の道路情報

町内情報メール

- ヒグマの出没情報
- ごみ収集の中止
- 阿寒バスの運休

羅臼町公式LINE
 ● 町内の様々な情報がタイムリーに配信されており、防災情報についてもお届けしています。

テレビ・ラジオ

テレビのニュースや天気予報だけでなく、データ放送では、気象情報や防災情報について常時放送されています。

避難行動ガイド

！警戒レベル3高齢者等避難や警戒レベル4避難指示が出たら、危険な場所から避難しましょう。

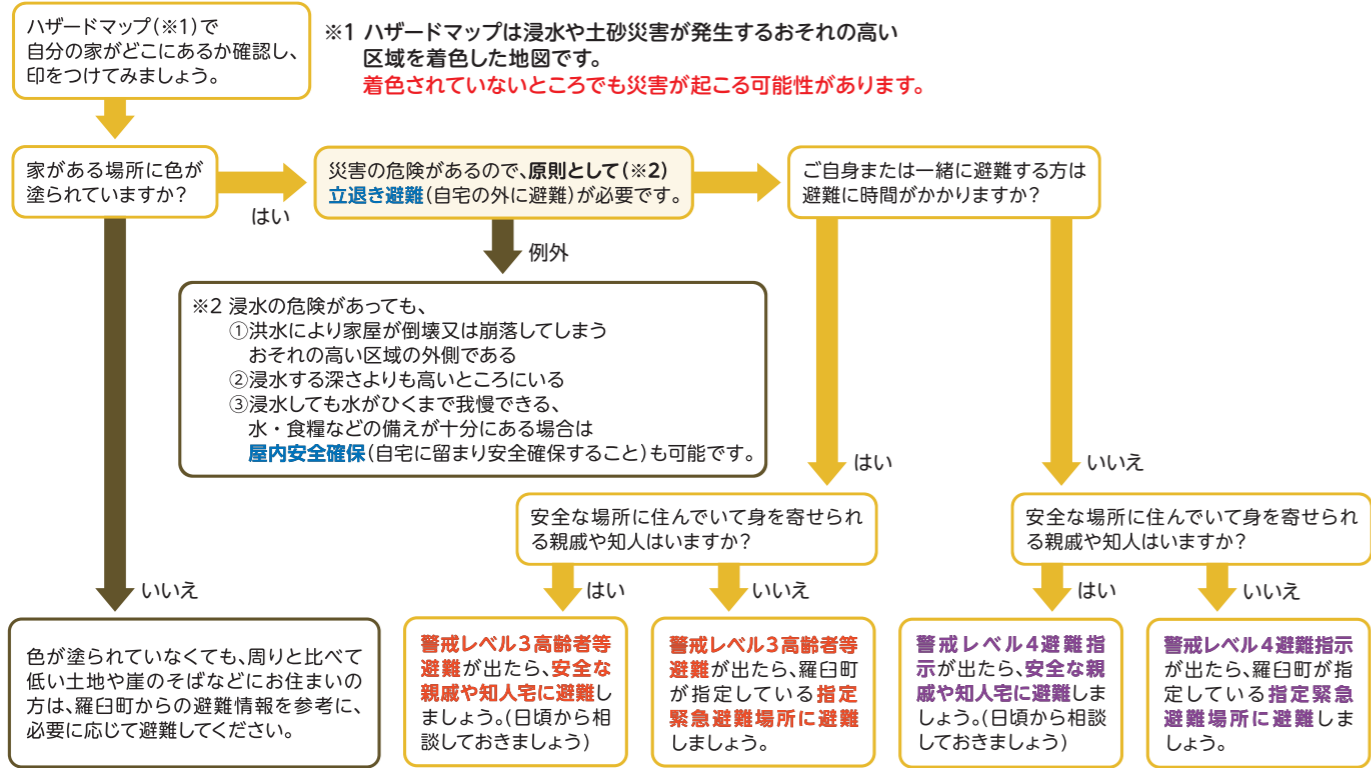
！避難とは難を避けることです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

！避難先は小中学校・公共施設だけではありません。安全な親戚・知人宅等で安全が確保されている場所に避難することも考えてみましょう。

◆避難行動判定フロー

普段から確認 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動を確認しましょう。

●あなたがとるべき避難行動は？



自宅の外へ避難する際の留意点

！避難するときの服装

- ヘルメット、帽子等をかぶる。
- 非常持ち出し品はリュックサックに入れて背負う。(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- やむをえず夜間に移動の際は懐中電灯を持つ。

！避難時のポイント

- 自宅を離れる前にもう一度火元を確認する。
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす。
- 持ち出す荷物は最小限にする。
- 近所の人に声をかけ、複数人で行動する。
- 避難先へは、徒歩で移動する。(地域によっては車での避難が有効な場合もあります)
- 狭い道やブロック塀、自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける。
- 子ども、障がい者、高齢者など避難行動要支援者はぐれないよう配慮をしながら避難する。

上記は一般的な避難留意点です。各災害に応じた留意点も、個別ページでご確認ください。

(ページ内の図表は内閣府ホームページより抜粋、編集)

土砂災害について

土砂災害の種類

土砂災害
1

がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。

土砂災害
2

土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

土砂災害
3

地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

土砂災害の前兆

前兆
1

がけ崩れの前兆

- がけから小石が落ちてくる
- がけから水が湧き出ている
- がけに割れ目が見える

前兆
2

土石流の前兆

- 川がにごり、流木が混ざり始める
- 雨が降り続いても川の水位が下がる
- 山鳴りがする

前兆
3

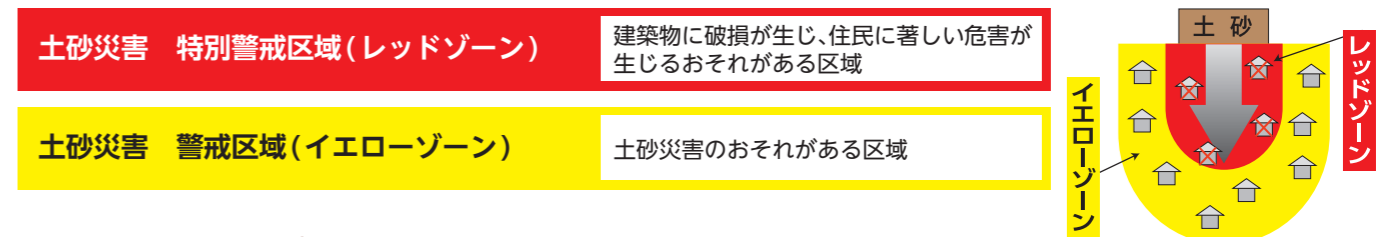
地すべりの前兆

- 川や井戸の水がにごる
- 地割れができ、家が傾く
- 斜面から水が噴き出す

※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、以下の通り危険な箇所を示しています。



避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域として示されている箇所においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

- 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。
- 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。
- 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。

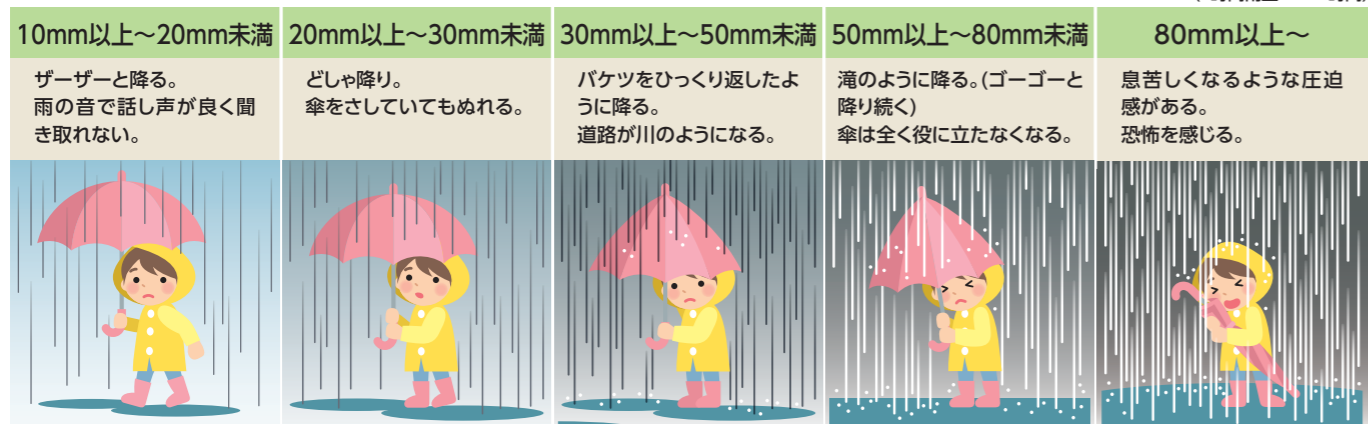
避難所一覧等情報
土砂・洪水
地震・津波
その他災害
災害への備え

避難所一覧等情報
土砂・洪水
地震・津波
その他災害
災害への備え

洪水・浸水害について

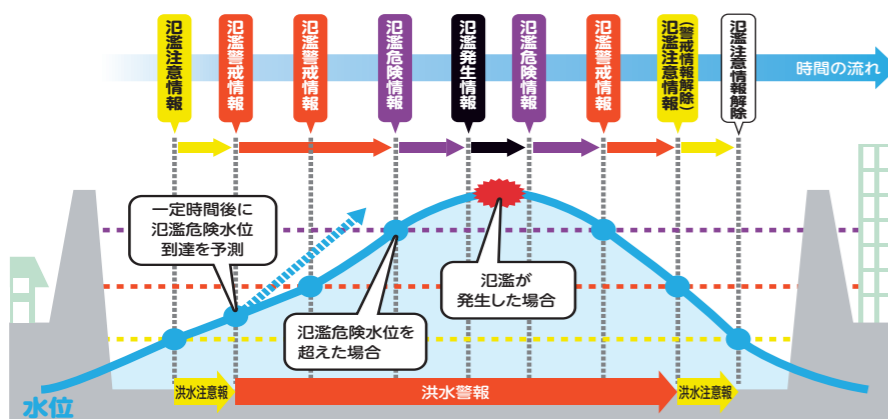
雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm/時間)



河川の危険水位と洪水予報

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。羅臼町はこの情報を目安にして、避難に関する情報を発令します。



河川名	羅臼川
観測所	公住橋
氾濫危険水位(レベル4水位)	13.23
避難判断水位(レベル3水位)	—
氾濫注意水位(レベル2水位)	11.61
水防団待機水位	10.68

(単位:m)

避難行動のポイント、危険な場所

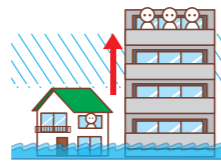
❗ 浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さでも歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



❗ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に避難する。



❗ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



❗ 川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。また、避難の途中でも増水した川の近くを通るのは避ける。



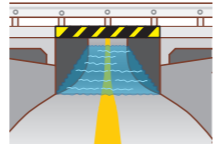
❗ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。



❗ アンダーパスは危険

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。



(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

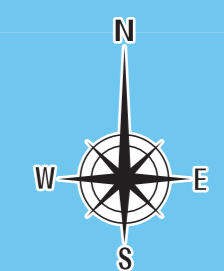
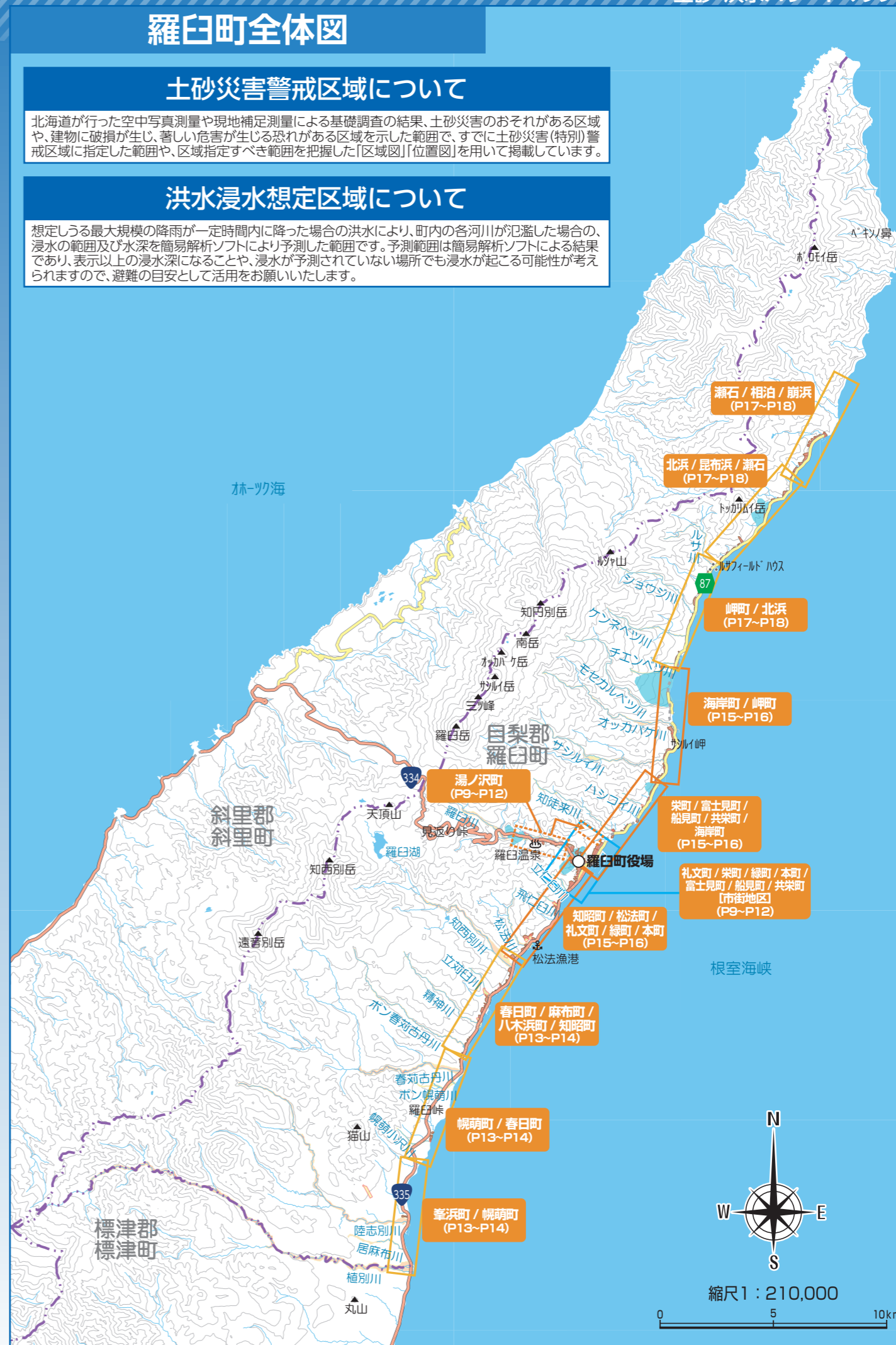
羅臼町全体図

土砂災害警戒区域について

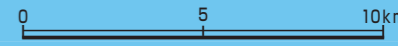
北海道が行った空中写真測量や現地補足測量による基礎調査の結果、土砂災害のおそれがある区域や、建物に破損が生じ、著しい危害が生じる恐れがある区域を示した範囲で、すでに土砂災害(特別)警戒区域に指定した範囲や、区域指定すべき範囲を把握した「区域図」「位置図」を用いて掲載しています。

洪水浸水想定区域について

想定しうる最大規模の降雨が一定時間内に降った場合の洪水により、町内の各河川が氾濫した場合の、浸水の範囲及び水深を簡易解析ソフトにより予測した範囲です。予測範囲は簡易解析ソフトによる結果であり、表示以上の浸水深になることや、浸水が予測されていない場所でも浸水が起こる可能性がありますので、避難の目安として活用をお願いいたします。



縮尺 1 : 210,000



避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧等情報

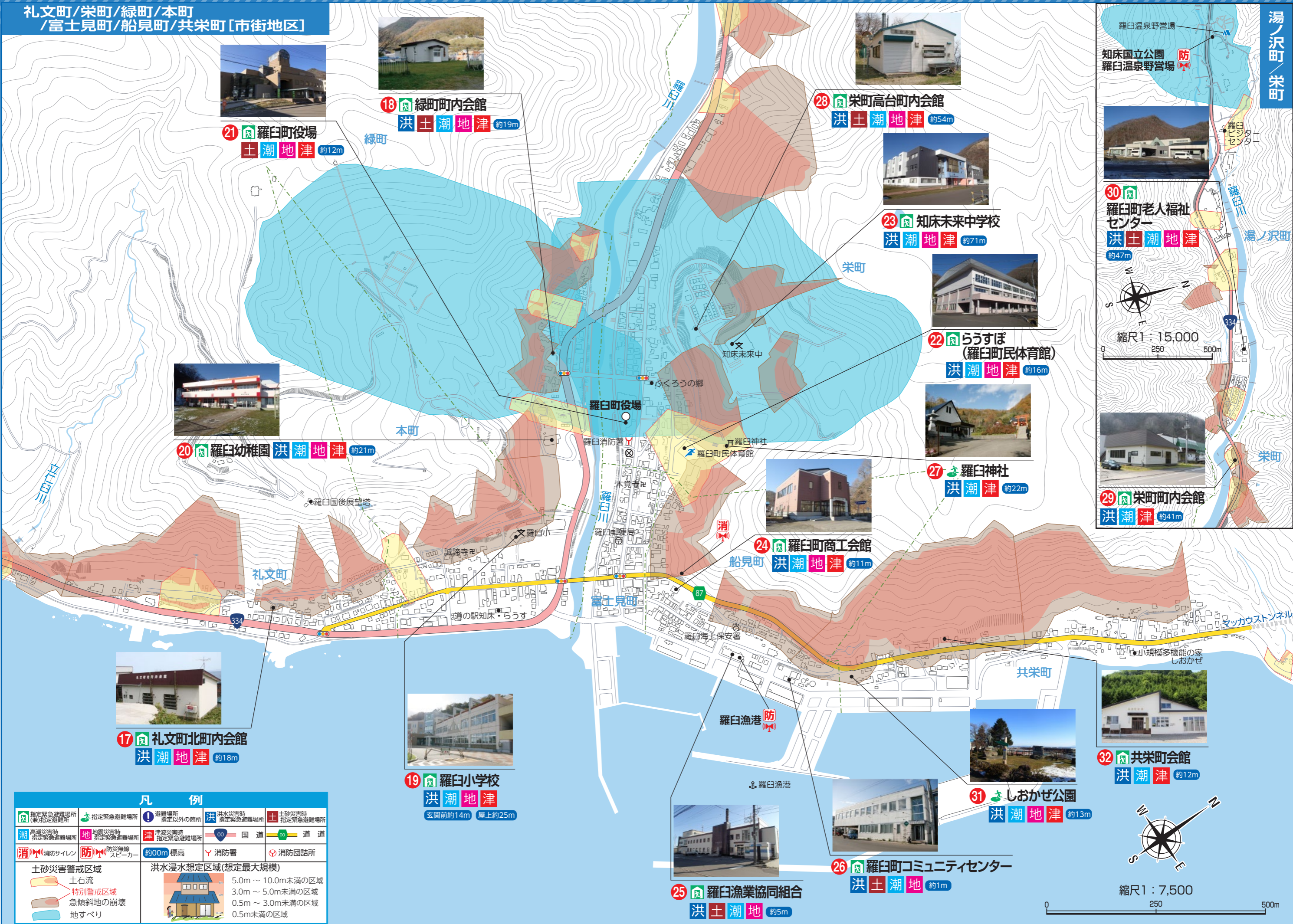
土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

礼文町/栄町/緑町/本町
/富士見町/船見町/共栄町 [市街地区]



21 羅臼町役場
土 潮 地 津 約12m



18 緑町町内会館
洪 土 潮 地 津 約19m



28 栄町高台町内会館
洪 土 潮 地 津 約54m



20 羅臼幼稚園 洪 潮 地 津 約21m



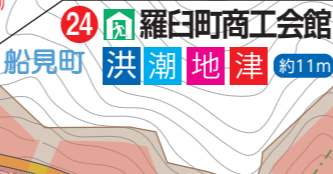
23 知床未来中学校
洪 潮 地 津 約71m



22 らうすぼ (羅臼町民体育館)
洪 潮 地 津 約16m



27 羅臼神社
洪 潮 津 約22m



24 羅臼町商工会館
船見町 洪 潮 地 津 約11m



17 礼文町北町内会館
洪 潮 地 津 約18m



19 羅臼小学校
洪 潮 地 津
玄関前約14m 屋上約25m



31 しおかぜ公園
洪 潮 地 津 約13m



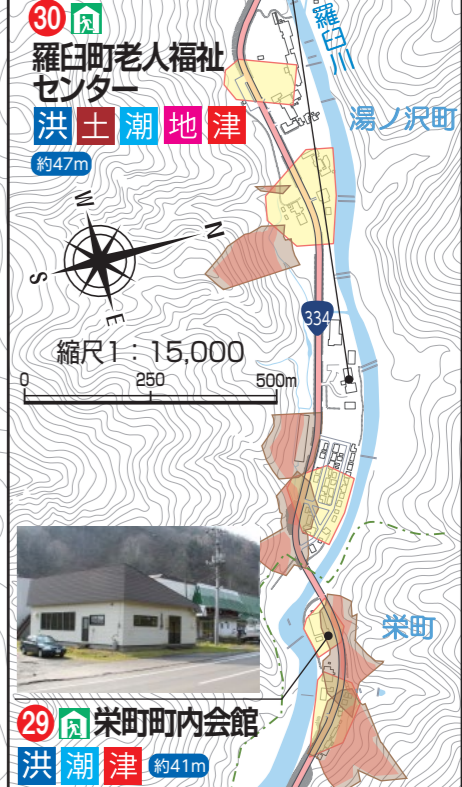
32 共栄町会館
洪 潮 津 約12m



25 羅臼漁業協同組合
洪 土 潮 地 約5m



26 羅臼町コミュニティセンター
洪 土 潮 地 約1m



縮尺1:15,000
0 250 500m



縮尺1:7,500
0 250 500m

凡 例	
指定緊急避難場所 (兼)指定避難所	指定緊急避難場所
洪水災害時指定緊急避難場所	地震災害時指定緊急避難場所
土砂災害時指定緊急避難場所	津波災害時指定緊急避難場所
土砂災害警戒区域	特別警戒区域
急傾斜地の崩壊	地すべり
避難場所	避難場所以外の箇所
洪水災害時指定緊急避難場所	津波災害時指定緊急避難場所
土砂災害時指定緊急避難場所	国道
消防署	消防団詰所
約00m 標高	消防署
土砂災害警戒区域	洪水浸水想定区域(想定最大規模)
特別警戒区域	5.0m ~ 10.0m未滿の区域
急傾斜地の崩壊	3.0m ~ 5.0m未滿の区域
地すべり	0.5m ~ 3.0m未滿の区域
	0.5m未滿の区域

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧等情報

土砂・洪水

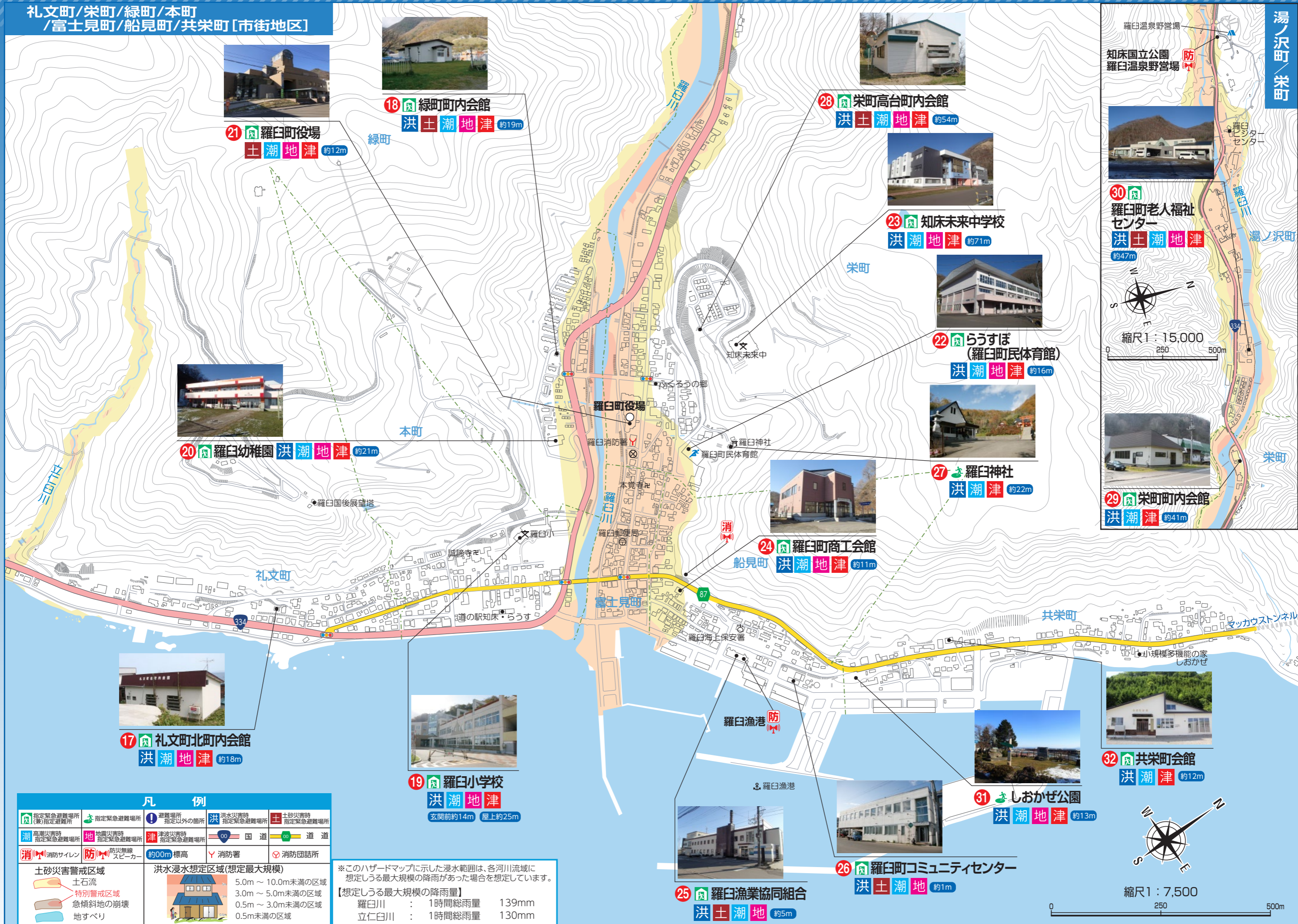
地震・津波

その他災害

災害への備え

礼文町/栄町/緑町/本町
/富士見町/船見町/共栄町 [市街地区]

湯ノ沢町/栄町



21 羅臼町役場
土 潮 地 津 約12m

18 緑町町内会館
洪 土 潮 地 津 約19m

28 栄町高台町内会館
洪 土 潮 地 津 約54m

23 知床未来中学校
洪 潮 地 津 約71m

22 らうすぼ (羅臼町民体育館)
洪 潮 地 津 約16m

27 羅臼神社
洪 潮 津 約22m

24 羅臼町商工会館
船見町 洪 潮 地 津 約11m

20 羅臼幼稚園
洪 潮 地 津 約21m

17 礼文町北町内会館
洪 潮 地 津 約18m

19 羅臼小学校
洪 潮 地 津
玄関前約14m 屋上約25m

32 共栄町会館
洪 潮 津 約12m

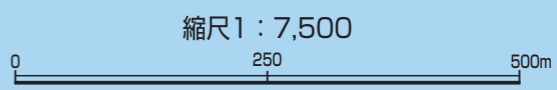
31 しおかぜ公園
洪 潮 地 津 約13m

25 羅臼漁業協同組合
洪 土 潮 地 約5m

26 羅臼町コミュニティセンター
洪 土 潮 地 約1m

凡 例	

※このハザードマップに示した浸水範囲は、各河川流域に想定しうる最大規模の降雨があった場合を想定しています。
【想定しうる最大規模の降雨量】
羅臼川 : 1時間総雨量 139mm
立仁臼川 : 1時間総雨量 130mm



避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

峯浜町/幌萌町



幌萌町/春日町



春日町/麻布町/八木浜町/知昭町



避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

知昭町/松法町/礼文町/緑町/本町



栄町/富士見町/船見町/共栄町/海岸町



海岸町/岬町



避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

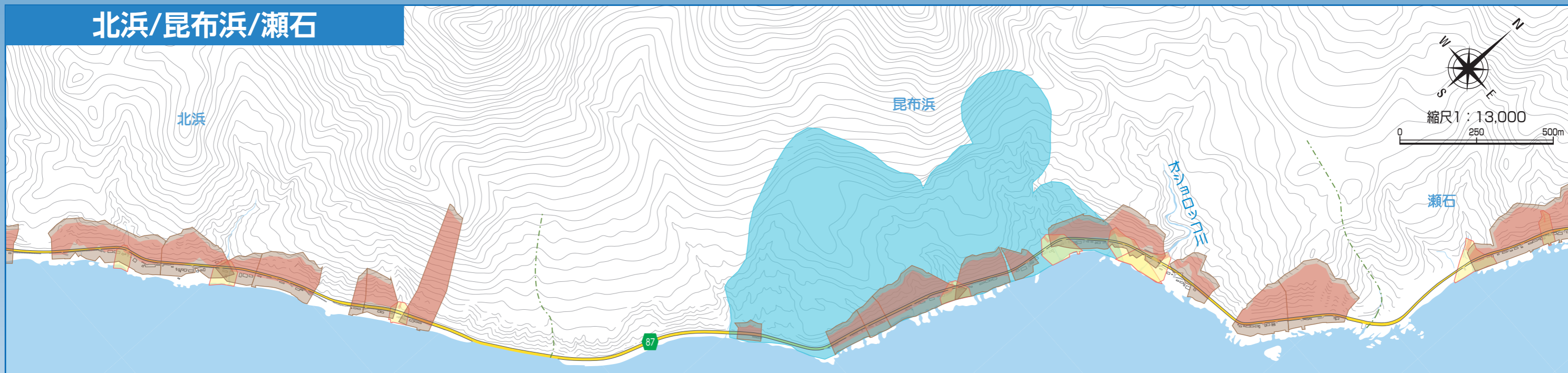
その他災害

災害への備え

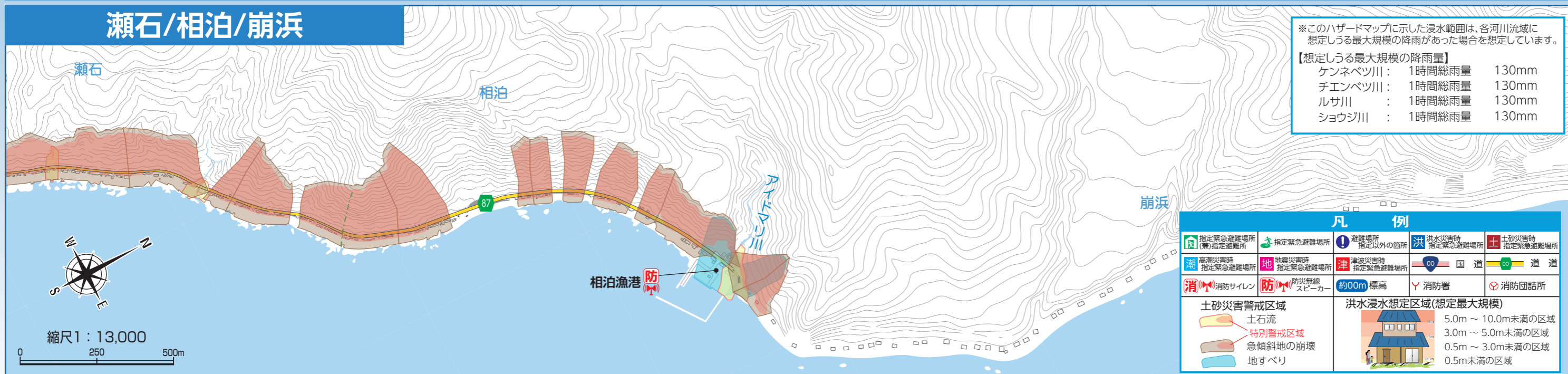
岬町/北浜



北浜/昆布浜/瀬石



瀬石/相泊/崩浜



※このハザードマップに示した浸水範囲は、各河川流域に想定しうる最大規模の降雨があった場合を想定しています。

【想定しうる最大規模の降雨量】

ケンネベツ川	1時間総雨量	130mm
チエンベツ川	1時間総雨量	130mm
ルサ川	1時間総雨量	130mm
ショウジ川	1時間総雨量	130mm

凡 例	
指定緊急避難場所 (兼)指定避難場所	指定緊急避難場所
避難場所 (指定以外の箇所)	洪水災害時指定緊急避難場所
高潮災害時指定緊急避難場所	地震災害時指定緊急避難場所
津波災害時指定緊急避難場所	津波災害時指定緊急避難場所
消防サイレン	防災無線スピーカー
約00m 標高	消防署
消防団詰所	
土砂災害警戒区域 土石流	洪水浸水想定区域(想定最大規模)
特別警戒区域	5.0m ~ 10.0m未満の区域
急傾斜地の崩壊地すべり	3.0m ~ 5.0m未満の区域
	0.5m ~ 3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

震度と揺れ方

<p>4 【震度4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。 	<p>5弱 【震度5弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまると感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	<p>5強 【震度5強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらなると歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で、落ちるものが多い。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
<p>6弱 【震度6弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建築物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 	<p>6強 【震度6強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●耐震性の低い木造建築物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。 	<p>7 【震度7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の低い木造建築物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ●耐震性の高い木造建築物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

●気象庁「図・写真等の名称」(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/index.html)を加工して作成

地震発生時の避難行動のポイント

<p>屋内</p> <p>家中</p> <ul style="list-style-type: none"> ●揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。 ●揺れがおさまったら火の確認はすみやかに。(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに) ●乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。 ●裸足で歩き回らない。(ガラスの破片などでケガをする) 	<p>デパート・スーパー</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。 	<p>劇場・ホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。
<p>屋外</p> <p>路上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。 ●近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。 ●ブロック塀や自動販売機などには近づかない。 ●倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。 	<p>集合住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ドアや窓を開けて避難口を確保する。 ●避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。 	<p>海岸付近</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。
<p>車を運転中</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。 ●揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。 ●避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。 	<p>電車などの車内</p> <ul style="list-style-type: none"> ●つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。 ●途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。 ●乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。 	<p>津波は度々来る</p> <p>津波は一度だけでなく複数回襲来し、後から来る津波の方が高くなることもある。</p>

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超(10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や津波避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m(5m<高さ≤10m)			
	5m(3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m(1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m(20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

※津波フラッグは避難の合図!!



津波警報等を知る手段に、令和2年夏より新しく『津波フラッグ』が加わりました。海岸で『津波フラッグ』を見かけたら、速やかに避難しましょう。

津波の特性と避難行動のポイント

<p>！ 水辺からすぐに離れる</p> <p>津波注意報であっても水辺は危険。ただちに海岸や川べりから離れる。</p>	<p>！ 津波の速度は速い</p> <p>津波の速度は非常に早く、目に見えてから逃げるのでは間に合わない。</p>	<p>！ 避難したら戻らない</p> <p>到達予想時刻が過ぎたり、第一波が引いたとしても、津波警報・注意報が解除され安全が確認されるまでは避難を継続する。</p>
<p>！ 津波は度々来る</p> <p>津波は一度だけでなく複数回襲来し、後から来る津波の方が高くなることもある。</p>	<p>！ 津波は場所により高くなる</p> <p>津波は沿岸に近づき水深が浅くなるほど、急激に高くなる。また、V字型の湾や岬の先端など、地形の影響で局部的に高くなる。</p>	<p>！ 津波は遠くからも来る</p> <p>津波は遠方の地震等によって発生することもある。日本近海の地震が伴わない津波警報・注意報にも注意する。</p>

もしもの時のため、「津波標識」の確認を

津波の危険がある場所には、津波が襲う危険を示す「津波注意」標識や、避難場所、避難ビルを示す標識が設置されています。海の近くにいるときは、必ず避難経路と合わせて確認しておきましょう。



津波避難場所



津波避難ビル



津波注意

(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

地震発生・津波の危険は？

地震発生時から数日間、身を守るためにとるべき行動を確認しましょう。

地震発生

2～5分 (大きな揺れがおさまったら)

身の安全を確保！

家の中にいるとき



座ぶとんなどで頭を守り、丈夫な机やテーブルなどの下へ。

外にいるとき



塀や自動販売機などから離れ、看板などの落下物から頭部を守りましょう。

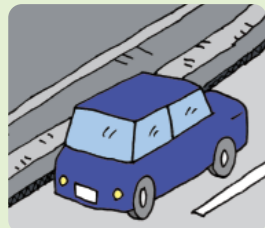
海岸や漁港にいる時は、警報を待たずにすぐ避難！

お店や乗り物などにいるとき



係員の指示に従ってください。大勢の人が集まる場所では階段や非常口に駆け寄りはいけません。

車を運転中



徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車してください。

こんな揺れでも要注意！！

- ・弱い地震
- ・長時間の地震
- ※揺れが小さくても1分以上揺れている場合は、津波が来る可能性があります。

避難情報が出たら
津波警報・注意報が出たら

落ち着いて周囲の確認

警報や注意報が発表されている地域など、正しい情報を入手！
・テレビ・ラジオ・インターネット
・防災行政無線など

ガラスの破片などに注意



ガラスの破片などに注意しましょう。

火の始末



揺れがおさまってから、素早く火の始末をしてください。

出口の確保



戸や窓をあけて、避難路を確保しましょう。

あわてて外へ逃げ出さない



瓦、窓ガラス、看板などの落下物に注意しましょう。

津波発生の危険は？

ある

ある

ない

5～10分

10分～半日

ただちに避難！

高い所へ！

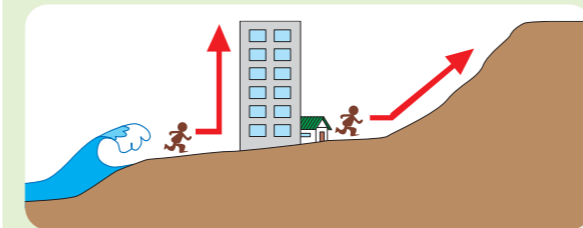


津波の危険を感じたら、急いで高台などへ避難してください。

解除されるまで！



津波は繰り返し来ます。警報や注意報が解除されるまで警戒してください。



「より遠く！より高く！より早く！！」

余震に注意！



安否確認

家族や近隣住民の安否を確認しましょう。



負傷者は？

周囲と協力して負傷者の応急手当をしましょう。



救出

周囲と協力して救出活動、初期消火に努めましょう。

避難所に行く必要は？

ある

ない

避難時は皆で協力を！

避難は徒歩で



徒歩で避難しましょう。地域によっては車で避難が有効な場合もあります。

非常用持出品を！



非常用品の重さは男性15kg、女性10kgが目安です。

感染対策も忘れず！



避難先で感染対策ができるよう、マスクやアルコール消毒液等の準備をしておきましょう。

身の周りを確認！

家の点検・片付け



家の被害を確認し、ガラスの破片や転倒した家具などを片付けましょう。

避難者や要支援者へ協力



避難が必要な人に協力しましょう。

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

羅臼町の津波の特徴と避難行動

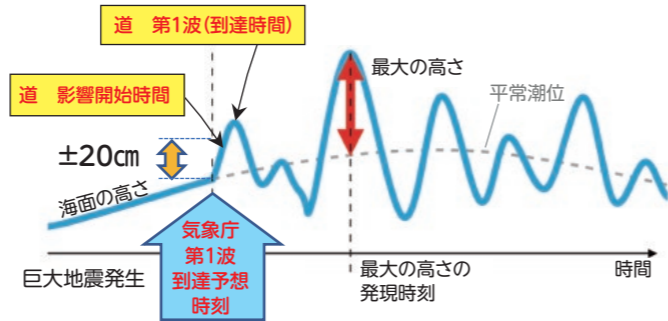
巨大地震が起こったときは <千島海溝周辺海溝型地震>

地震発生とほぼ同時に津波が来る!!

1 津波の影響開始時間及び津波の高さ

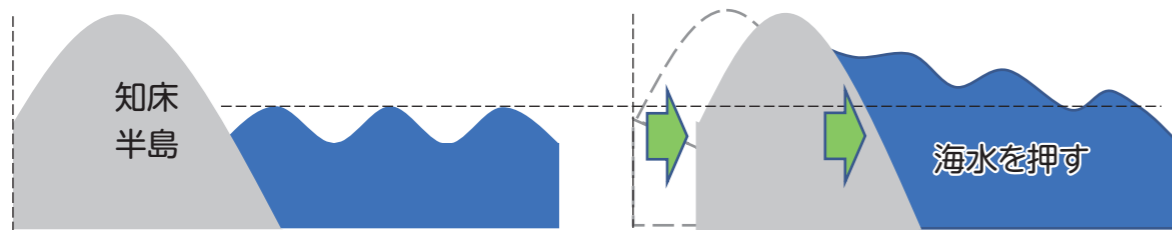
津波発生とほぼ同時に数十cmの津波が発生し、その後最大3m程度の高さに達する恐れがあります。

※津波は、数十cmでも大人を流してしまう威力があります!



2 どうして羅臼町は津波の到達が早いのか?

地震発生と同時に知床半島全体が地殻変動で南方向にずれ動き、海水を押し出すことで海面が盛り上がり、津波となるためです。



3 津波警報を待たずにすぐ避難開始!!

海岸や漁港にいる人は、緊急地震速報が流れたり、大きな揺れが長く続いたときは、津波警報を待たずに、揺れていてもできるだけ速やかに避難行動を開始してください。

❗あまりに早く津波が到達するため、警報は間に合いません!

4 どこまで避難すればよい?

- まずは、国道、道道のところまで一目散に避難しましょう。
- さらに安全な所や津波避難場所を目指して避難を続けましょう。

❗木造の住宅は、1~2m程度の津波でも全壊して流される可能性があります。建物の高いところに避難する場合は、鉄筋コンクリート製で耐震強度があり、津波に対して十分に高さが確保できる場合に限られます。

羅臼町全体図

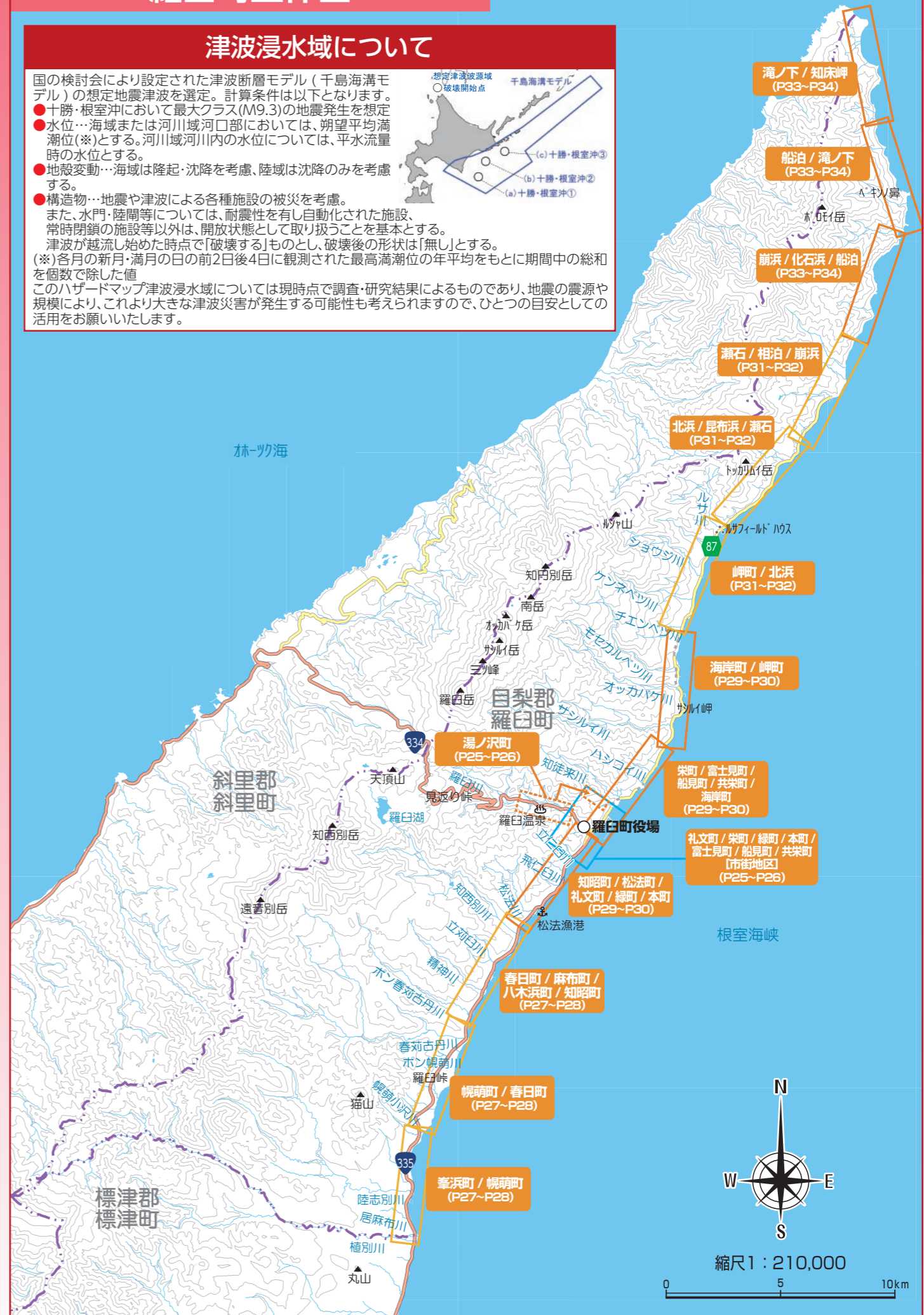
津波浸水域について

国の検討会により設定された津波断層モデル(千島海溝モデル)の想定地震津波を選定。計算条件は以下となります。

- 十勝・根室沖において最大クラス(M9.3)の地震発生を想定
- 水位…海域または河川域河口部においては、朔望平均満潮位(※)とする。河川域河川内の水位については、平水流量時の水位とする。
- 地殻変動…海域は隆起・沈降を考慮、陸域は沈降のみを考慮する。
- 構造物…地震や津波による各種施設の被災を考慮。また、水門・陸閘等については、耐震性を有し自動化された施設、常時閉鎖の施設等以外は、開放状態として取り扱うことを基本とする。津波が越流し始めた時点で「破壊する」ものとし、破壊後の形状は「無し」とする。

(※)各月の新月・満月の日の前2日後4日に観測された最高満潮位の年平均をもとに期間中の総和を個数で除した値

このハザードマップ津波浸水域については現時点で調査・研究結果によるものであり、地震の震源や規模により、これより大きな津波災害が発生する可能性も考えられますので、ひとつの目安としての活用をお願いいたします。



避難所一覧情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

礼文町/栄町/緑町/本町
/富士見町/船見町/共栄町 [市街地区]



21 羅臼町役場
土 潮 地 津 約12m

18 緑町町内会館
洪 土 潮 地 津 約19m

28 栄町高台町内会館
洪 土 潮 地 津 約54m

23 知床未来中学校
洪 潮 地 津 約71m

20 羅臼幼稚園
洪 潮 地 津 約21m

22 らうすぽ
(羅臼町民体育館)
洪 潮 地 津 約16m

30 羅臼町老人福祉センター
洪 土 潮 地 津 約47m

17 礼文町北町内会館
洪 潮 地 津 約18m

27 羅臼神社
洪 潮 津 約22m

26 羅臼町コミュニティセンター
洪 土 潮 地 約1m

29 栄町町内会館
洪 潮 津 約41m

19 羅臼小学校
洪 潮 地 津
玄関前約14m 屋上約25m

24 羅臼町商工会館
洪 潮 地 津 約11m

31 しおかぜ公園
洪 潮 地 津 約13m

32 共栄町会館
洪 潮 津 約12m

25 羅臼漁業協同組合
洪 土 潮 地 約5m



湯ノ沢町/栄町

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

峯浜町/幌萌町



幌萌町/春日町



春日町/麻布町/八木浜町/知昭町



避難所等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所等情報

土砂・洪水

地震・津波

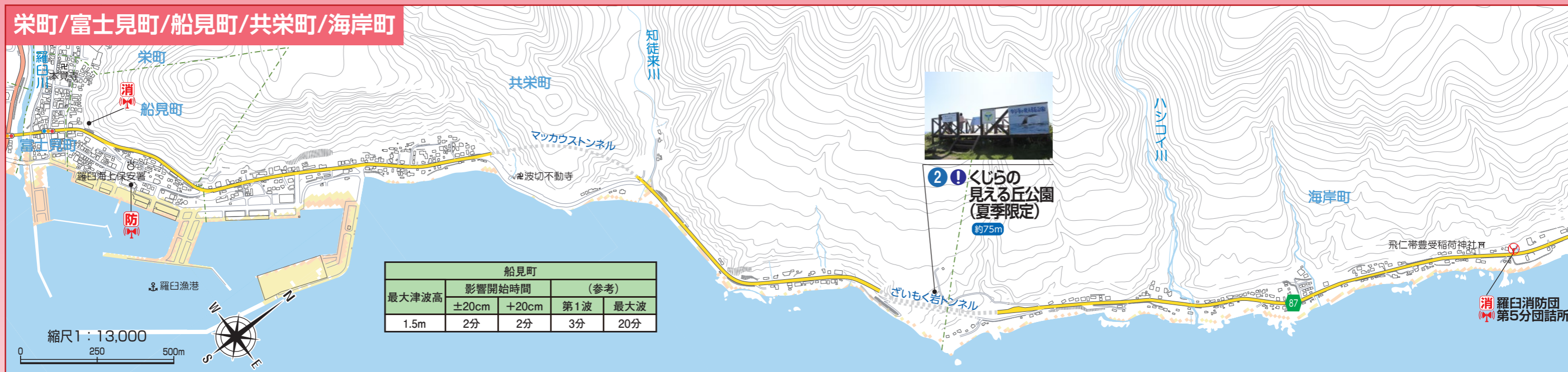
その他災害

災害への備え

知昭町/松法町/礼文町/緑町/本町



栄町/富士見町/船見町/共栄町/海岸町



海岸町/岬町



避難所等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所等情報

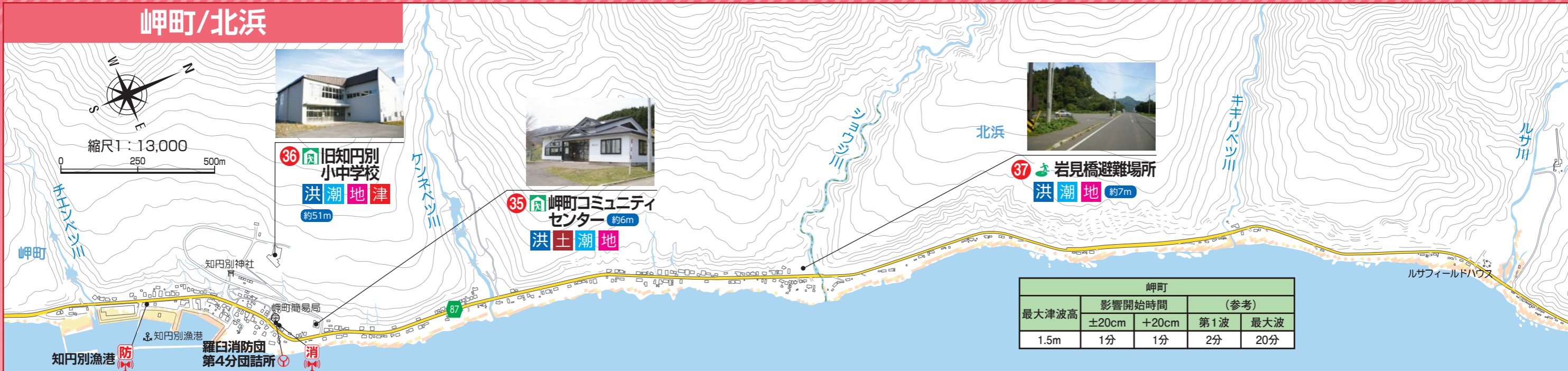
土砂・洪水

地震・津波

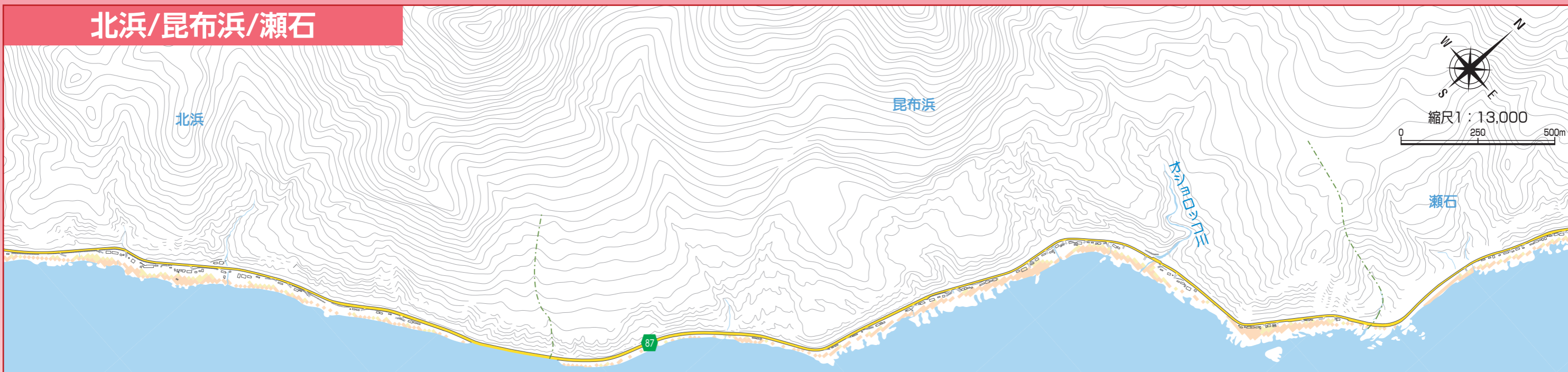
その他災害

災害への備え

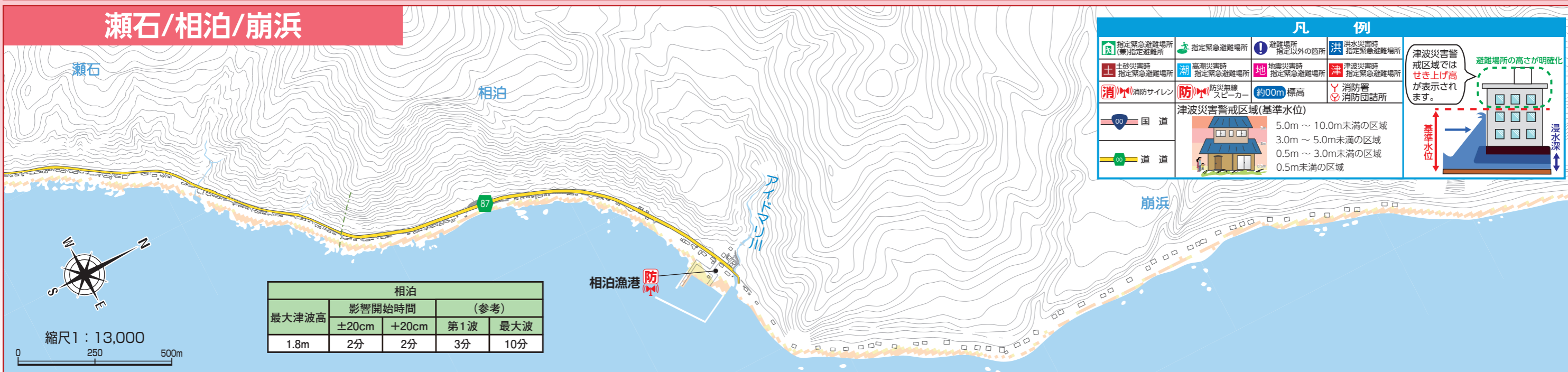
岬町/北浜



北浜/昆布浜/瀬石



瀬石/相泊/崩浜



凡 例			
指定緊急避難場所 (兼)指定避難所	指定緊急避難場所	避難場所 (指定以外の箇所)	洪水災害時 指定緊急避難場所
土砂災害時 指定緊急避難場所	高潮災害時 指定緊急避難場所	地震災害時 指定緊急避難場所	津波災害時 指定緊急避難場所
消防サイレン	防災無線スピーカー	約00m 標高	消防署 消防団詰所
津波災害警戒区域(基準水位)			避難場所の高さが明確化
	5.0m ~ 10.0m未満の区域	津波災害警戒区域では せき上げ高が表示されます。	浸水深
	3.0m ~ 5.0m未満の区域		
	0.5m ~ 3.0m未満の区域		
	0.5m未満の区域		

避難所一覧等情報

土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

避難所一覧等情報

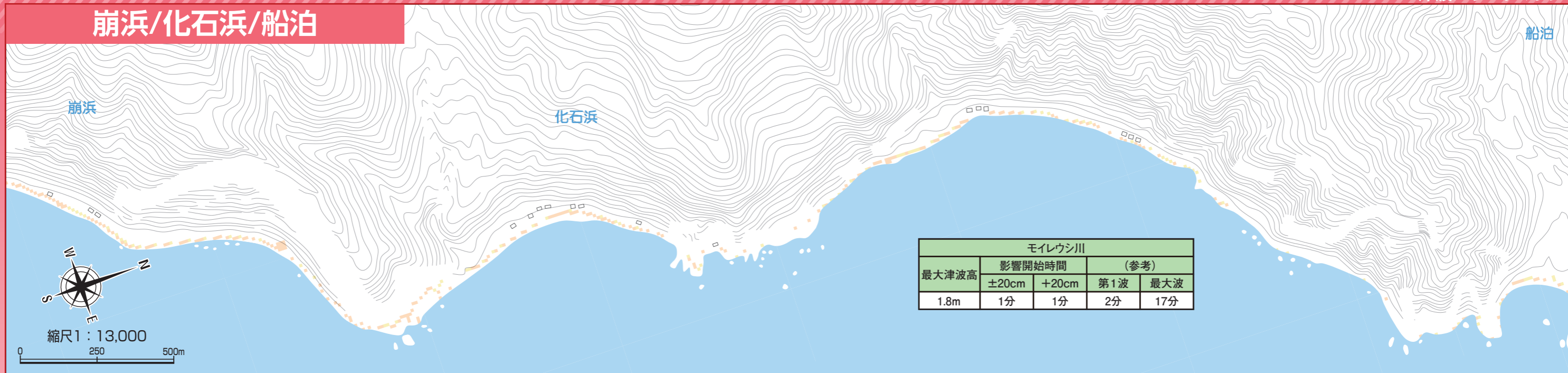
土砂・洪水

地震・津波

その他災害

災害への備え

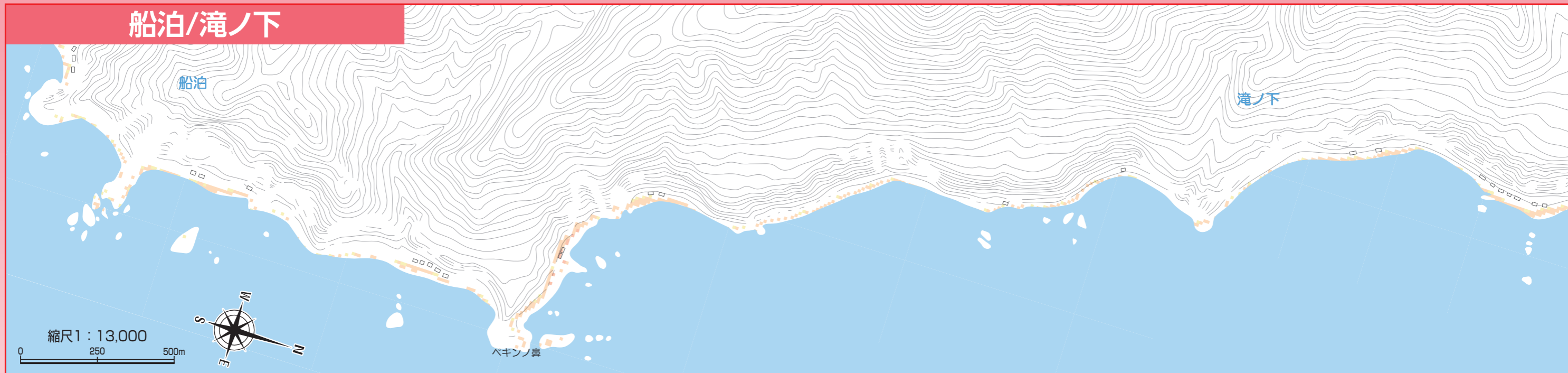
崩浜/化石浜/船泊



モイレウシ川				
最大津波高	影響開始時間		(参考)	
	±20cm	+20cm	第1波	最大波
1.8m	1分	1分	2分	17分

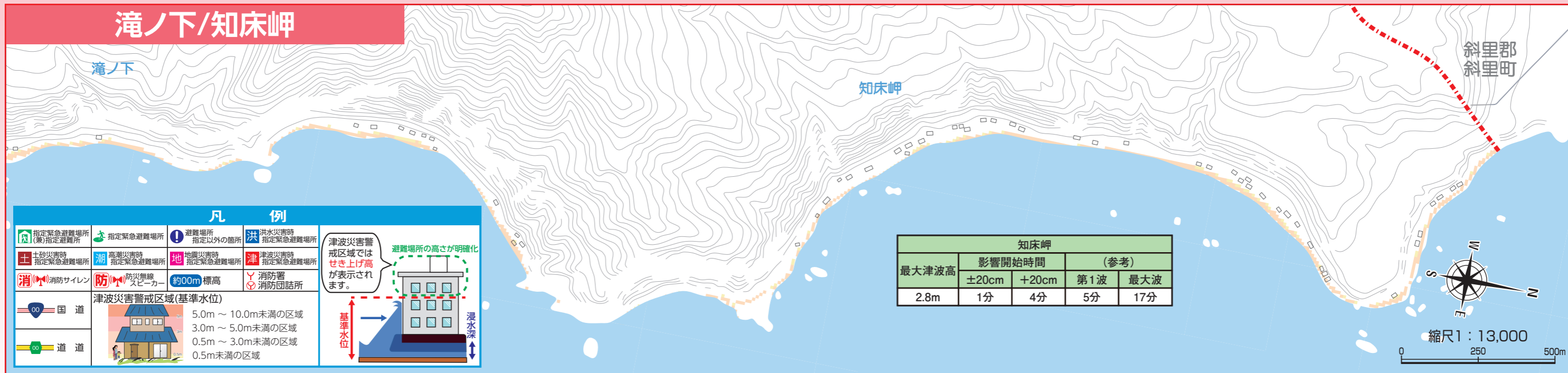
避難所一覧等情報

船泊/滝ノ下



土砂・洪水

滝ノ下/知床岬



地震・津波

凡 例

指定緊急避難場所 (兼)指定避難所	指定緊急避難場所	避難場所 (指定以外の箇所)	洪水災害時 指定緊急避難場所	津波災害警戒区域では、せき上げ高が表示されます。	避難場所の高さが明確化
土砂災害時 指定緊急避難場所	高潮災害時 指定緊急避難場所	地震災害時 指定緊急避難場所	津波災害時 指定緊急避難場所		
消防サイレン	防災無線スピーカー	約100m 標高	消防署 消防団詰所		
津波災害警戒区域(基準水位)					
国道	5.0m ~ 10.0m未満の区域				
道道	3.0m ~ 5.0m未満の区域				
	0.5m ~ 3.0m未満の区域				
	0.5m未満の区域				

知床岬				
最大津波高	影響開始時間		(参考)	
	±20cm	+20cm	第1波	最大波
2.8m	1分	4分	5分	17分

その他災害

災害への備え

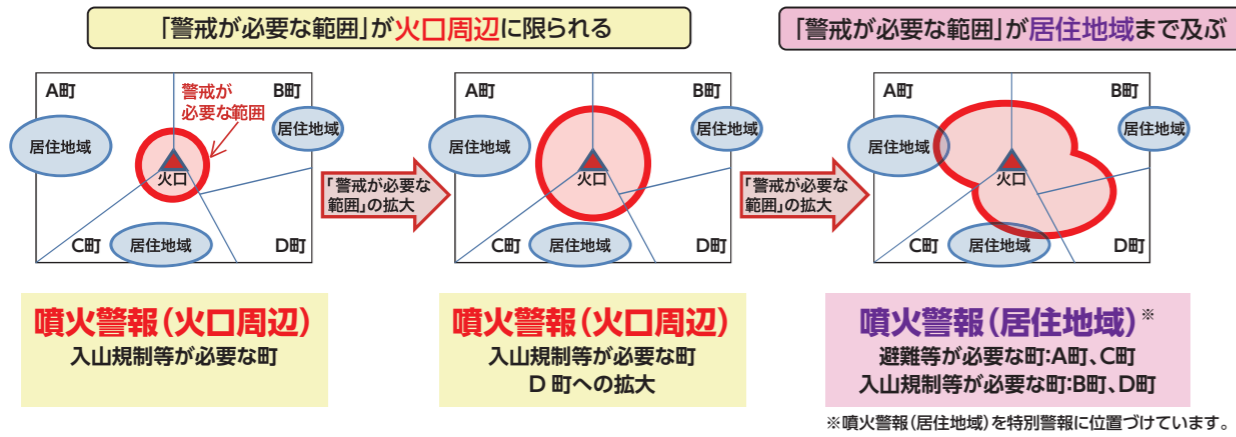
火山噴火対策について

噴火警報・噴火予報

羅臼町周辺にある羅臼岳・知床硫黄山・天頂山は活火山に指定されており、噴火による被害が発生する可能性があります。

噴火警報

気象庁は、全国の活火山を対象として**噴火警報**を発表しています。噴火警報は、生命に危険を及ぼす火山現象（噴石、火砕流、泥流等、発生から短時間で居住地域に到達し、避難の時間的猶予がない現象）の発生やその拡大が予想される場合に、「警戒が必要な範囲」（危険を及ぼす範囲、下図の○の範囲）を発表します。なお、「警戒が必要な範囲」が居住地域まで及び場合に発表する「噴火警報（居住地域）」を**特別警報**として位置づけています。



種別	名称	対象範囲	警戒事項等（キーワード）	火山活動の状況
特別警報	噴火警報（居住地域） 又は 噴火警報	居住地域及びそれより火口側	居住地域及びそれより火口側の範囲における 居住地域 の 居住地域 の 居住地域	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
警報	噴火警報（火口周辺） 又は 火口周辺警報	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺における 入山危険	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
		火口から少し離れた所までの火口周辺	火口から少し離れた所までの火口周辺における 火口周辺危険	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
予報	噴火予報	火口内等	活火山であることに留意	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる。（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）

噴火警報が対象としている主な火山現象

大きな噴石

噴火によって火口から吹き飛ばされた概ね20~30cm以上の大きな噴石は、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散します。破壊力があり、人体や建物に被害を及ぼします。

火砕流

高温の火砕物（火山灰、軽石等）と高温のガスが一体となって猛スピードで山腹を駆け下る現象です。温度数百度、最大時速100km以上にも達し、その通過域では焼失・破壊など壊滅的な被害が生じます。

融雪型火山泥流

噴火に伴う火砕流等の熱によって積雪が融け、大量の水と土砂が一体となって高速で流れ下る現象です。時速60kmを超えることもあり、積雪の状況によっては谷筋や沢沿いをはるか遠方まで一気に流下し、通過域では壊滅的な被害が生じます。

噴火警報では、主にこれらの現象に対する「警戒が必要な範囲」を発表します。これらの現象は、発生を確認してから避難するのは間に合わないため、噴火警報を活用した事前の避難や入山規制等が必要です。



雪害について

暴風雪の被害に遭わないために

暴風雪による被害は、晴天から急激な天候の変化が起きた時に多く発生しています。気象情報等、大雪・暴風雪の警報が発表されたら厳重に警戒して下さい。無理をせず外出を避けましょう。外出しているときに悪天が予想されると知ったときは、最新の気象情報や交通情報等を確認しましょう。

暴風雪に備える

家の中で安全に過ごすために

- 1 気象情報に注意して、暴風雪が予想されているときは外出を避けましょう。
- 2 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ポータブルストーブや灯油、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。
- 3 FF式暖房機などを使用している場合は、給排気口付近が雪でふさがれないように注意しましょう。



一酸化炭素中毒に注意!

車のエンジンから排出される排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。車が立ち往生した際、排気口（マフラー）が雪で埋もれてしまうと、排気ガスが床下などにたまり、ボディの隙間や外気導入口などから車室内に入り込む可能性が高まります。ストーブの不完全燃焼は、一酸化炭素中毒を発症させる原因となる事があります。



車で外出するときに気をつけること

- 1 携帯電話を忘れずに所持しましょう。
- 2 万が一に備えて、飲料水や非常食を用意しましょう。
- 3 やむを得ず外出をしなければならない場合には、道路状況に応じた無理のない運転を心がけましょう。
- 4 立ち往生する可能性もあるので、防寒着・毛布等・長靴・手袋・スコップ・けん引ロープなどを車に用意するとともに、燃料を確認しておきましょう。
- 5 ホワイトアウトなどにより身の危険を感じたら、コンビニやガソリンスタンド等、安全な場所で天候の回復を待ちましょう。

- 6 車が立ち往生したときは、JAFなどのロードサービスや近くの人家などに救助を依頼してください。また、ハザードランプ点灯や停止表示板を置くなど、車が目立つようにしてください。
- 7 避難できる場所や近くに人家がない場合は、消防（119番）や警察（110番）に連絡して、車の中で救助に備えてください。
- 8 車が雪に埋まったときはエンジンを切りましょう。毛布等で暖をとるようにしてください。防寒などでやむを得ずエンジンをかけるときは、窓を開けて換気し、こまめにマフラーまわりを除雪してください。

除雪のこんなときが危険

雪に関する死亡事故の9割以上は除雪に関係した事故によるものです。

除雪による事故を防ぐチェックポイント

雪かきをする

- 準備運動・整理運動をしっかり
- 滑りにくい防寒靴も含めて服装は万全に
- 腕の力だけに頼るのではなく体全体を使う
- 雪を投げ出すときは体をひねりすぎない
- もしものために2人以上で作業
- 屋根からの落雪など周辺状況を十分把握

除雪機を使う

- 除雪機を使うときは周りの人に注意
- 雪詰まりはエンジンを停止してから雪かき棒で
- 後進には十分注意
- エンジンをかけたまま離れない

屋根の雪下ろしをする

- 低い屋根の雪下ろしでも油断は禁物
- ヘルメット、命綱、安全帯など装備は万全に
- アンカーをしっかり固定し命綱を忘れずに
- はしごは横ずれしないよう真っ直ぐに立て支えてもらう
- 屋根の下に人がいないことを確認
- 屋根に10cm程度の雪を残し屋根材を露出させない
- もしものために2人以上で作業

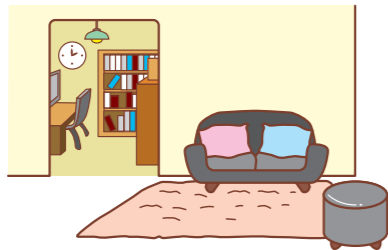
わが家の防災対策

家の中の安全対策

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

！家中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



！寝室、子どもやお年寄りのいる部屋にはできるだけ家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具が倒れるおそれがあり危険。やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具にするとともに、寝ている場所に倒れないよう、また出入口をふさがないように、向きや配置を工夫する。



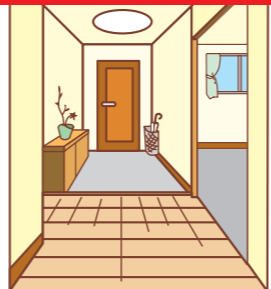
！家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



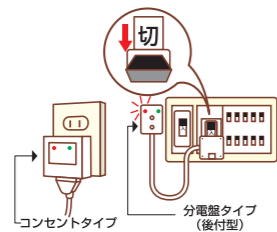
！安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



！電気火災発生の防止

地震による火災の原因の多くは電気に関連。電気ストーブや電気コンロの転倒や、停電復旧時の通電火災(破損した電気コードのショートによる出火など)がある。電気火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効。



！手の届くところに防災品を備える

夜間就寝時、停電になると周囲の確認ができず危険。地震の場合はガラスが散乱したり、部屋に閉じ込められることもある。普段寝る場所から手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを。

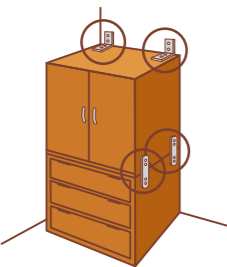


家具の転倒、落下を防ぐポイント

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

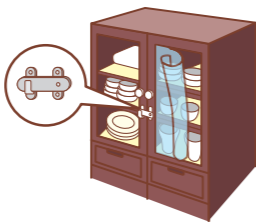
ダンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



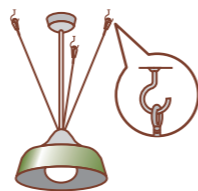
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



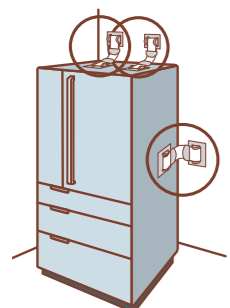
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



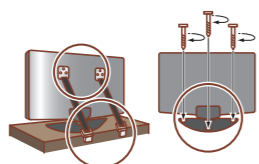
冷蔵庫

所定の取り付け場所(運搬用取っ手など)を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



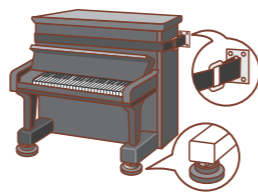
テレビ

テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



備蓄品および非常持ち出し品

避難するときに最初に持ち出すのが「非常持ち出し品」。災害直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資が「備蓄品」です。以下は一例です。とくに非常持ち出し品は、持って逃げられる量にしましょう。(男性 15kg 女性 10kgが目安)

非常持ち出し品

●とっさの場合に持ち出せるようにリュックサックにつめておきたい

貴重品

- 現金 ※公衆電話用に硬貨も
- 印鑑
- 家や車の予備鍵
- 証書類のコピー (健康保険証、免許証、通帳、保険証書、権利書など)

情報収集用品

- 携帯ラジオ ※予備電池も
- 携帯電話(スマートフォン)の充電器
- モバイルバッテリー ※ライト付きが便利
- 筆記用具

非常飲食品など

- 非常食 ※軽く高カロリーのもの
- 飲料水
- 給水袋
- 万能ナイフ

衛生用品

- 救急セット ※常備薬も
- タオル
- マスク
- 消毒液
- 体温計
- トイレ用ペーパー
- ウェットティッシュ
- ビニール袋
- 下着類

安全用品

- 懐中電灯 ※予備電池も
- ヘルメット・防災ずきん
- 軍手
- スリッパ
- 笛やブザー ※居場所を知らせるもの
- マッチ・ライター
- 毛布・保温シート
- 使い捨てカイロ



備蓄品

●少なくとも3日(できれば1週間)は自力で生活できるように準備

- 飲料水 ※1人1日3ℓ
- 食品 ※アルファ化米、長期保存食品など専用品の他、下記ローリングストックの活用を
- 給水用ポリタンク・バケツ
- カセットコンロ・ガスボンベ
- 使い捨ての食器類
- 食品用ラップ

- ランタン
- 災害用トイレセット
- からだ拭きシート
- 水のいらぬシャンプー
- ガムテープ
- ビニールシート



上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。

定期的に点検を!

いざというときに支障がないように食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、普段から少し多めに食品や日用品を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことをローリングストックと言います。日常生活の中に、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

一対象品目の例ー

ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、インスタント食品、お菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物、カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、トイレ用ペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、乾電池、使い捨てカイロ



📄 わが家の「緊急・救急情報」防災メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたい、わが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関などに情報を提供します。

家族の集合場所

集合場所	避難所・避難場所	連絡方法

家族の連絡先及び救急情報

氏名	続柄	電話番号(自宅・携帯)	電話番号(会社・学校)	生年月日	血液型	救急情報(持病・アレルギー・常備薬)
					型	
					型	
					型	
					型	
					型	

親族・知人

氏名	間柄	電話番号

かかりつけ医療機関

医療機関名	電話番号

緊急ダイヤル

消防へ火事・救急・
救助の連絡

119

警察へ事件・
事故の連絡

110

海上の事件・
事故の連絡

118

災害用伝言ダイヤル「171」

災害時には電話がつながりにくくなります
「171」に電話をかけると、伝言の録音や再生ができます



発行 羅臼町 監修 釧路地方気象台・北海道大学 高橋浩晃 教授 TEL 0153-87-2111 FAX 0153-87-2916

測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R2JHs293-753号
測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R2JHs294-339号
JIS Z8210 広域避難場所 避難所(建物)

2022年3月発行